

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2023 年 4 月 11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局 京都大学大学院生命科学研究科

職 名 教授

氏 名 高田 穰

| | | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------|
| 助成の種類 | 令和4年度・国際会議開催助成 | | |
| 国際会議名 | 第19回毛細血管拡張性運動失調症ワークショップ2023(ATW2023) | | |
| 開催期間 | 2023年3月2日～2023年3月5日 | | |
| 開催場所 | 京都学・歴彩館 | | |
| 参加者 | 総数 155名 | 内訳 (一般参加者122名(うち外国人58名) 招待演者33名(うち外国人31名)) | |
| 成果の概要 | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有() | | |
| 会計報告 | 事業に要した経費総額 | 12,082,691 円 | |
| | うち当財団からの助成額 | 1,000,000 円 | |
| | その他の資金の出所 | (機関や資金の名称)参加費、上原財団、日本分子生物学会、京都市MICE開催支援、 広告料、運営費、JSPS研究拠点形成事業 | |
| | 経費の内訳と助成金の用途について | | |
| | 費目 | 金額(円) | 財団助成充当額(円) |
| | 会場費および会議用備品費 | 1,149,094 | |
| | 当日運営費 | 1,634,396 | |
| | 印刷製本費 | 574,750 | |
| | 事務諸経費 | 1,795,881 | |
| | 旅費 | 3,979,670 | 1,000,000 |
| 懇親会費 | 2,068,900 | | |
| レセプション費 | 880,000 | | |
| 合計 | 12,082,691 | 1,000,000 | |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) | | |

成果の概要

報告者名 第19回毛細血管拡張性運動失調症ワークショップ オーガナイザー
京都大学 大学院生命科学研究科 教授 高田 穰

国際会議開催助成のサポートによって第19回毛細血管拡張性運動失調症ワークショップ(ATW2023)を開催したので、報告する。

毛細血管拡張性運動失調症 Ataxia Telangiectasia (AT) は DNA 損傷応答・修復、放射線影響において中心的な役割をはたす ATM キナーゼの遺伝的欠損症である。AT ワークショップ (ATW) は、AT と ATM キナーゼを中心に、臨床から基礎研究まで、幅広く DNA 損傷応答関連の先端研究成果を報告議論するプラットフォームとして世界各国を持ち回って継続開催されてきた伝統ある学術集会で、今回 19 回目となる。AT は、神経系、免疫系、内分泌系などが侵され癌が多発するなどの多彩な症状を示し、ATM は健常人の発癌や癌治療を考える上でも重要な因子である。たとえば、ヒトの癌の半数で失われる癌抑制遺伝子 p53 は ATM によって活性化されることが示されている。

ATW は AT 患者の治癒を求める家族団体や、著名な ATM 研究者らからなる国際科学委員会によって構想、企画され、各国の研究者がローカルの組織委員会を準備し実施を引き受けて開催するという形を取ってきており、日本国内では、2008 年に、京大・放射線生物研究センター（以下、放生研）の小松賢志名誉教授らが実施主体となり、ATW2008 として滋賀県大津で開催された。今回の ATW2023 は、中国深セン大学の研究者が中心となって 2022 年秋の開催を予定していたところ、コロナの状況のため開催を断念したため、2023 年京都での開催を我々 ATM 関連研究者の多い放生研で引き受けることになったものである。深センの研究者らがすでにこの分野のトップレベル研究者多数を招聘しており、その大部分が ATW2023Kyoto へ参加することとなった。

会場としては、北山の京都学・歴彩館の大ホールを借り受けることができた。歴彩館大ホールは、最新の建築であり、内装、音響、映写設備とも素晴らしいものであった。このホールで、3 月 2 日の午後に Ataxia Telangiectasia 患者さんの家族による挨拶(NPO 法人 2つの虹)を皮切りに、すべての講演を 4 日間に渡ってプレナリーとして実施した。講演内容としては、2つのキーノートレクチャー、7つのセッションにわけて 48 人の講演(うち 12 をポスター抄録からのショート

トークとして採択した)を拝聴した。また、ポスターセッション(ショートトークとして採択した 12 演題を除いた残り 50 演題を提示)を 2 回実施した。

以下に、キーノートのタイトルと講演者、セッション名(各セッションの講演者は省略)を記す。

Keynote Lecture 1

Investigating A-T: fulfilling a duty to the patients and their families while gaining new biomedical insights

Yossi Shiloh (Tel Aviv University, Israel)

Session 1: Basic and clinical sciences of AT and ATM/ATR(1)

Session 2: DNA repair and cancer (1)

Session 3: Replication, transcription, and genome organization (1)

Session 4: DNA repair and cancer (2)

Session 5: Immunity and metabolism

Session 6: Replication, transcription, and genome organization (2)

Session 7: Basic and clinical sciences of AT and ATM/ATR (2)

Keynote Lecture 2:

Active DNA demethylation and potential vulnerability to ATM deficiency

Andre Nussenzweig (National Institutes of Health, USA)

ソーシャルイベントとしては、2 日のウェルカムレセプション、4 日午後のエクスカーション(50 名程度の参加者、嵐山へバストリップ)、5 日セッション終了後のバンケット(100 名程度参加)とし、十分な交流機会を提供できたと考えている。

今回の ATW は、招待講演者は 2 名を除き外国人で、招待者以外の参加登録者 122 名のうち、58 名が外国人であり、およそ 150 名の最終参加者のうち、6 割が外国人という、真に国際的なシンポジウムとなった。COVID-19 の影響が心配されたが、思い切って対面実施のみとした。幸い、一名の招待者と一名の参加者が感染して参加取りやめとなったほかには、あまり影響なかったと思われる。多数の参加者を集めてセッションの議論はもりあがりを見せ、この領域の先端研究成果を討議し、ATM 関連のサイエンスの発展を支え、A-T や癌の新たな治療法

を模索するという目的を十分に果たしたと確信する。

第20回のATWは、ATW2025として、二年後中国深センにて開催予定となっている。

一日目、コーヒースタンドに撮影した集合写真を添付する。

